

Modern Diplomacy

September 9, 2023

BRICS の中東進出： 地域と世界の双方向関係の構築へ

BRICS' Middle East Expansion: Towards an Interactive Regional-Global Mechanism

<https://moderndiplomacy.eu/2023/09/09/brics-middle-east-expansion-towards-an-interactive-regional-global-mechanism/>

by Mohmad Saleem Sheikh

中東における BRICS の意義

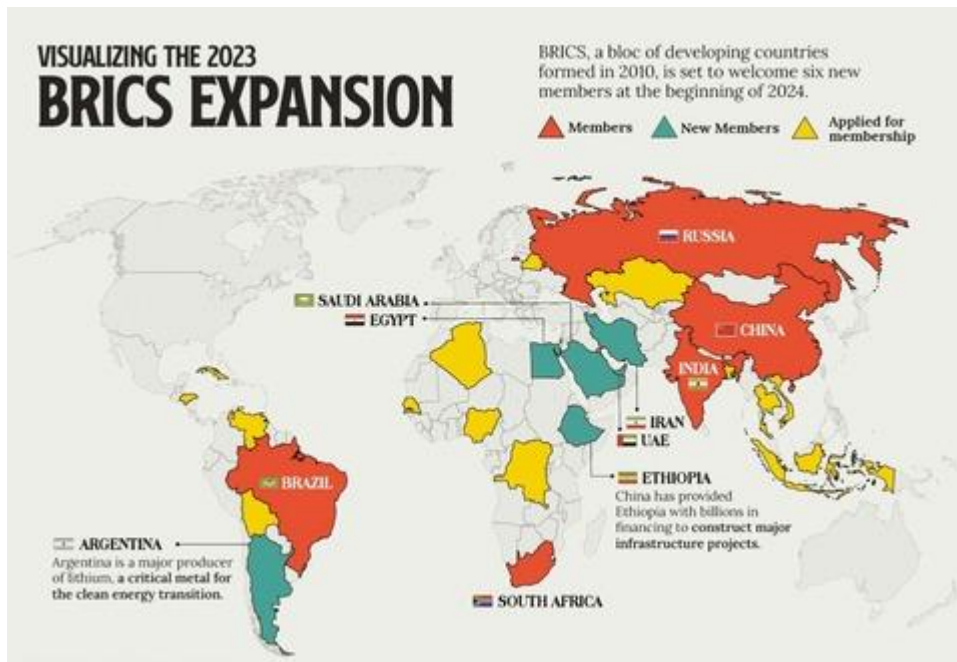
BRICS の中東への進出は、中東地域と国際的な変化の組み合わせの結果、もたらされたものである。それは中東地域にとって、主体的かつ相互作用的なプロセスである。それは中東地域のみならず国際経済の動きにも影響を与えるであろう。

サウジアラビア、UAE、エジプト、イランという顔ぶれは、各々が地域の有力者であり、この地域の力学を形成する上で重要な役割を果たしている。BRICS が中東に一気に進出してきたのは、この地域に経済的展望を

もたらし、新加盟国間の経済貿易交流を相互強化する可能性を生み出すと考えられたからである。

BRICS の中東への進出は、地域諸国にとって貿易・外交の多重構造を強化することになる。このグループ化は地政学的というよりも地理経済学的な性格が強いといえる。

2003 年のイラク侵攻以来、地政学的不安定さがこの地域の特徴をなしている。BRICS 加盟四カ国が意見の相違を調停すれば、それは情勢を安定させ、地域内の混乱を緩和する上で役立つであろう。



サウジアラビア、アラブ首長国連邦、エジプト、イランは、それぞれ独自の地政学的目標によって動いている。サウジアラビアと UAE の場合は、資源依存から経済を脱却させること、エジプトの場合は経済停滞からの脱却、イランでは孤立から脱却することである。

これらの国々はまた、世界レベルで中心国の位置にあり、自立して他国に競争を挑みたいという欲求に駆られている。世界に依存するのではなく、世界のパートナーとなることを望んでいる。

BRICS の地理経済学的な性格からして、加盟のためにグループ内の政治的連帯や特定の立場を要求されることはない。だから地域レベルでの相

反する動機が争点となる可能性は低い。それは別なところの話にして、BRICS はグローバルな経済目標の設定や調整に専念することになるだろう。

経済的困難にどう立ち向かうか

今日の中東・北アフリカ地域諸国 (MENA) を突き動かす動機は、イデオロギーというよりも、官民の雇用創出に向けた圧力である。中東諸国は経済開発による雇用の創出を目指し、ビジネス、投資、技術や生産の分野におけるシステム革新と進歩の道を切り開こうとしている。

これらの国々は、中東地域を国際的係争から遠ざけ、自国を対立的で覇

権主義的な勢力から切り離したいという強烈な希望を持っている。

* 中国やインドへの経済的な働きかけは、「地域の和解」に向けた支援とともに、イデオロギー的な分裂を調停したり、緊張を緩和する役割を期待してのものである。これらの役割は、明らかにこれまでの支援者からは期待できない。

* 国内対立を煽るイデオロギー的レトリックは、この地域に亀裂を生じさせ、政権への力による挑戦に拍車をかけてきた。

* パンデミックとウクライナ戦争後に起こった世界経済の激変は、資源輸入依存国への食料供給ラインに混乱をもたらした。UAE やサウジアラビアのように、石油以外のすべてを輸入に依存する国々は、I2U2 のような新興の生産・製造ブロックに参加するよう説得された。BRICS への加盟は、ある意味ではその政策の延長線上にある。

(訳注：I2U2 グループは、コロナ感染最中の 2022 年 7 月に結成された経済グループ。インド、イスラエル、アラブ首長国連邦、および米国よりなる。米国の狙いはクアッドの西アジア版である)

BRICS 加盟諸国との関係強化は何をもたらすか

サウジと BRICS

インドは強力なグローバル・サプライ・チェーンをもち、中東・北アフリカ諸国に対して途切れることのないサプライヤーとなりうる。サウジアラビアは中国の協力を得て原子力発電所の開発を検討している。中国はこのように中東諸国に技術的な支援おこなう事ができる。

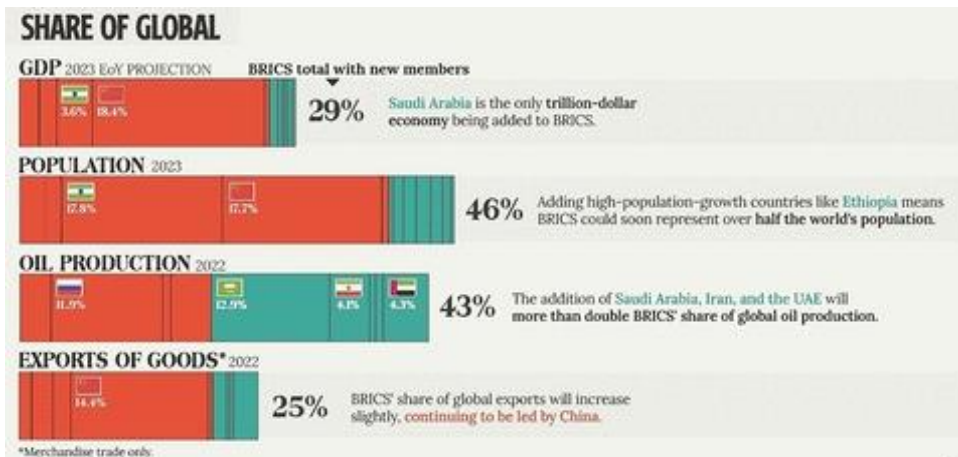
中国とインドは、リヤドとイランからの最大の石油購入国でもあり、BRICS と協力しながら、エネルギー供給をより合理化することができる。

産油国と BRICS

特に強調しておきたいことは、産油国（サウジ、UAE、イラン、ロシア）と、中国やインドなどのアジアの新興勢力との協力関係の形成が、あらたな経済ブロックの出現を示していることである。

そこには資本、技術、人的資源、市場があり、グローバル・サウスを貧困と世界的不平等から脱却させる潜在的な原動力が秘められている。

この新しい経済メカニズムは、ドルの覇権に挑戦し、ヨーロッパの為替システムに利益をもたらすだけでなく、アフリカ、中東、南アジアの小規模経済圏にとっても有益である。



マグレブ諸国と BRICS

中東北アフリカ地域は、新たな経済活動、開発、持続可能な地域となる可能性を秘めている。

こうした新たな経済活動は、アフリカや中東の最悪の紛争地域が政治的に安定するためにも有益である。ひとたび政権の安定性が確立されれば、それらの国家は混乱の再発を許さないだろう。強力な大国は、暴力や不安定をもたらす潜在的な供給源、パトロンを排除することになるだろう。

サウジ vs イラン関係と BRICS

サウジアラビアとイランの和解は、2015年以來サウジアラビアと代理戦争が続くイエメンにおいて、暴力の閾値を下げるのが可能である。

しかし最終的和解は、軍事衝突でなく外交的解決をとるという戦略的強制力を感じた時のみ可能となる。

それまでは、遠回りでも二国間の経済活動を強化し、戦闘地域の人々を非過激化することが重要である。

BRICSの枠組みは、二国間の経済活動を行う動機付けとなるだろう。

シーア派非国家組織と BRICS

イランとロシアは、BRICSという経済的枠組みを自らの生き残りにとって効果的なメカニズムだと考えている。それは、核開発によって課された制裁体制から逃れるための、新しい経済的枠組みであり、欧米諸国からテロリストに指定されている。ヒズボラ、ハマス、フーシのような非国家組織を支援するためにも有効である。

金融・通貨システムと BRICS

それはまた各国通貨での取引を可能にする可能性を持っており、西側の貿易・為替システムに挑戦するものとかんがえられる。脱ドル化は、世界のエネルギー供給市場におけるアメリカとヨーロッパの優位性に影響を与えるという観測もある。

しかし、BRICS の中東への拡大は、既存の国際間システムの見直しを好まない国との軋轢を伴う。その結果、かえって新たな同盟関係や多国間主義を強化することにも繋がる可能性がある。

包括的メカニズム (multiple inclusive mechanism) やグローバル・ガバナンスのもう一つの形態を世界に示すことになる。それは、地域をひとつにまとめ、世界の平和と繁栄を高めるための新たな繋がりを生み出す可能性を秘めている。

中東の正常化プロセスと BRICS

BRICS の拡大は、中東の正常化プロセスを加速させると予想される。サウジアラビア、アラブ首長国連邦、エジプト、イランというこの地域の主要 4 カ国は、過激主義、テロリズム、不安定性と集団で闘い、この地域を悩ます難民危機を調整する可能性を持っているからだ。

それはリスクを嫌う投資家に信頼を与え、投資に資する環境を醸成し、地政学的な危険があれば敏感に察知するであろう。

このような環境が整えば、投資家、著名なテクノロジー企業、大企業の関心が、大きな成長の可能性を秘めた未開拓の中東市場に集まる。経済活動を加速させることは、馴れ合い主義を排し、過激主義と戦い、イデオロギー攻撃を封じ込めることを意味する。

重要なことは、このことが安全保障上の相互信頼を醸成し、協力を促し、中東諸国間で共通の脅威に立ち向かうことにつながるということである。

欧米の覇権主義排除と破綻国家の再建

平和が発展するということは、2003年の米国のイラク侵攻以降、米国や欧州諸国などの世界覇権が先導してきた地政学的介入が減少することを意味する。対外的な地政学的介入の減少は、国家の破綻を緩和するために極めて重要である。それはさらに国家をまたがる紛争を縮小し、そしてさらに破綻国家の再建を促す。シリア、イエメン、イラク、リビアのような破綻国家、野放しの暴力地域

が、地域の安全保障を乱しているからだ。

このように、エジプト、サウジアラビア、UAE、イランが一堂に会することは、平和と安定の見通しが立ったことを意味する。それは、平和の地域化に向けた重要な一歩であり、和解と外交をもたらすであろう。

BRICS の拡大を分析すると、地政学的な目的がその原動力ではないことがわかる。それはむしろ、投資と資金調達の相互支援体制を形成することを目的としている。そうした経済的理由こそが、中東・北アフリカ諸国が BRICS の加盟を受け入れた理由である。

この連盟は、中東における地域内および対外的な勢力争いを解消するのが目的だ。BRICS の加盟は、中東における地域内および外部との勢力争いをなくすことにつながるだろう。BRICS は、地政学的・軍事的同盟ではなく、新たな協力関係と見なすことができる。中東諸国が経済を多様化し、対外活動を拡大し、国際市場に参入するのに役立つだろう。

エジプト、エチオピア、イランのような国々にとっては、開発プログラムのための新たな資金調達手段を得

る機会となるだろう。インド、UAE、サウジアラビアのような国々は、このプラットフォームが政治的・戦略的に使われることを好まないだろう。BRICS の創設目標にも反することになる。

西側諸国では、イランが加わったことで、湾岸諸国における西側の利益に対する脅威が増すとの懸念が広がるかもしれない。中国やロシアとともにもう一つのリスクとなるのではないかという懸念である。

しかし、BRICS の拡大は既存の国際秩序に挑戦するためのものではないことを強調しておきたい。それはむしろ、BRICS の機能と経済活動のための空間を切り開こうとする試みであり、地域を安定化させ、紛争を回避するために有益である。

複数の経済ブロックが存在することで、相互依存が強化され、既存の経済秩序における不均衡を是正することができる。

複数の枠組みが存在することで、貿易を行う際に複数の選択肢が各国に提供され、健全性が担保され、経済競争が強化される。そのことで、対立的な個別行動がシステム全体の機能を損なうことを抑制し、バランスをとることになる。

各国は、既存のシステムを損なうことなく戦略的ヘッジをかけたり、代替システムを利用したりするだろう。